めざします。企業の繁栄と社会への貢献。

ほうじん 鹿児島

HOJIN KAGOSHIMA

2015 春号
Vol.12 Spring

【巻頭特集】
桜島と京都大学
井口　正人　京都大学教授

【特集】
乃木靜子銅像 復元に向けて

【特集】
鹿児島の100年企業
㈲竹迫温泉
小牧建設㈱

今春移転の鹿児島市立病院

乃木静子夫人銅像について

(20歳頃)

安政６年（1859年）11月27日、鹿児島藩医湯地定之と貞子夫妻の四女（七番目の子）として薩摩国鹿児島郡鹿近在塩屋村（現在の鹿児島県鹿児島市新屋敷町）に出生。幼名はお七、またはお志知。

明治５年、数え14歳の時に海外留学から帰国した長兄・定基に呼び寄せられる形で家族揃って東京赤坂溜池二番地の湯地定基邸に転居、東京府麹町区にある麹町女學校に入学。

陸軍軍人・伊地知幸介や野津鎮雄らの勧めにより、長州出身の乃木希典と明治11年８月27日に結婚。名前も「お七」から「鎮」（しず）～「静子」と改める。軍人の妻として長男勝典を始め、４人の子宝に恵まれる（２人目以降は夭逝）。

しかし日露戦争が開戦、長男勝典、次男保典が相次いで戦死。その報を知った母静子は深い悲しみに暮れ、三日三晩泣き通したと云う。

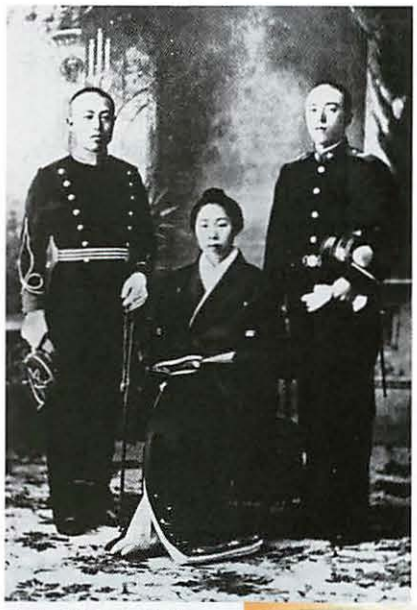
1912年（明治四五年）７月、明治天皇が崩御、その後（大正元年）９月13日、乃木邸（現港区赤坂にある乃木神社）に於いて、今上両陛下の御真影を掲げ、供物を捧げ、明治天皇を追って希典と共に殉死した。享年54歳（満52歳）。

その人生の生涯を明治という時代に捧げた女性の鏡であり、良妻賢母として讃えられ、大正から昭和のはじめ、子供の名に「静子」という名が流行ったと云われます。

大正８年11月27日、村野山人と村野須美子は私財をなげうって、静子生誕地である甲突川左岸緑地に１.２０ｍ程の夫人の銅像が建立されるも、先の大東亜戦争末期、陸軍より軍事資材確保（鉛弾）として徴収され、現在はその台座のみが遺っております。

有志先人方より銅像建立のお話しはありましたが、この度奉賛会を発足することに至りました。

村野山人翁の意思を引継ぎ、文化財・史跡として後世に伝え残すべく、この主旨をご理解頂き、何卒皆さま方のご支援ご協力を賜りますようご案内申し上げます。



左から長男 勝典、
母 静子、次男 保典

殉死の日の朝の乃木夫妻

大正時代に撮影された、乃木静子夫人像

乃木靜子夫人　銅像建立ご協力のお願い

（平成28年11月建立予定）

現在の台座

建立予定地

【募金目標額】	壱　千　萬　圓
【募金名称】	乃木靜子夫人銅像建立の募金
【募集期間】	平成26年9月13日～同29年7月31日（予定）
【募金の目的】	乃木靜子夫人銅像の建立
【設置場所】	甲突川左岸緑地公園内
【募　金　額】	一　口　壱万圓以上　　奉加帳に記載致します 五口以上のご協力者様は御名前を石盤に銘記予定
【お振込口座】	名義　乃木靜子夫人奉賛会 （ノギシズコフジンホウサンカイ） 郵便局振替口座　記号 01790 1　番号 142838 （郵便局備え付けの振込み用紙にてご入金出来ます）

のぼりを立てて協力のお願い

奉賛会役員のみなさん

乃木靜子夫人奉賛会
銅像建立実行委員会事務局
〒892-0838　鹿児島県鹿児島市新屋敷町５番15号（船魂神社内）
電話　099-226-7457　FAX　099-227-0195
shizuko_housankai@yahoo.co.jp
http://www.geocities.jp/shizuko_housankai/